VIII　県が取り組むべき施策

○　「県が取り組むべき施策」や「神奈川らしい教育に生かしたいもの」について、教職員、保護者、学校評議員に聞くことで、本県の教育行政に期待するところや、神奈川の特色を生かした独自の教育についての考えを把握することにした。

○　調査の結果、「県が取り組むべき施策」について、教職員は順に「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「障害のある児童・生徒への支援」と回答する割合が高くなっている。保護者と学校評議員は「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」の順になっている。一般県民では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」、「体験活動やボランティア活動ができる環境の整備」の順になっている。

　回答の割合が最も高い項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者は、今回の調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、前回の調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」となっている。学校評議員は、今回の調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、前回の調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」となっている。

○　また、「神奈川らしい教育に生かしたいもの」について、教職員は順に「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」、「個性豊かでたくましい人づくり」、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」と回答する割合が高くなっている。

　保護者と学校評議員は「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」、「個性豊かでたくましい人づくり」の順になっている。

　回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成 17 年度調査結果では、教職員、保護者、学校評議員のいずれも「個性豊かでたくましい人づくり」となっている。

VIII－1　県が取り組むべき施策

教職員、保護者、学校評議員、一般県民に、『県が取り組むべき施策』について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「障害のある児童・生徒への支援」であり、保護者及び学校評議員では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」、一般県民では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」、「体験活動やボランティア活動ができる環境の整備」であった。

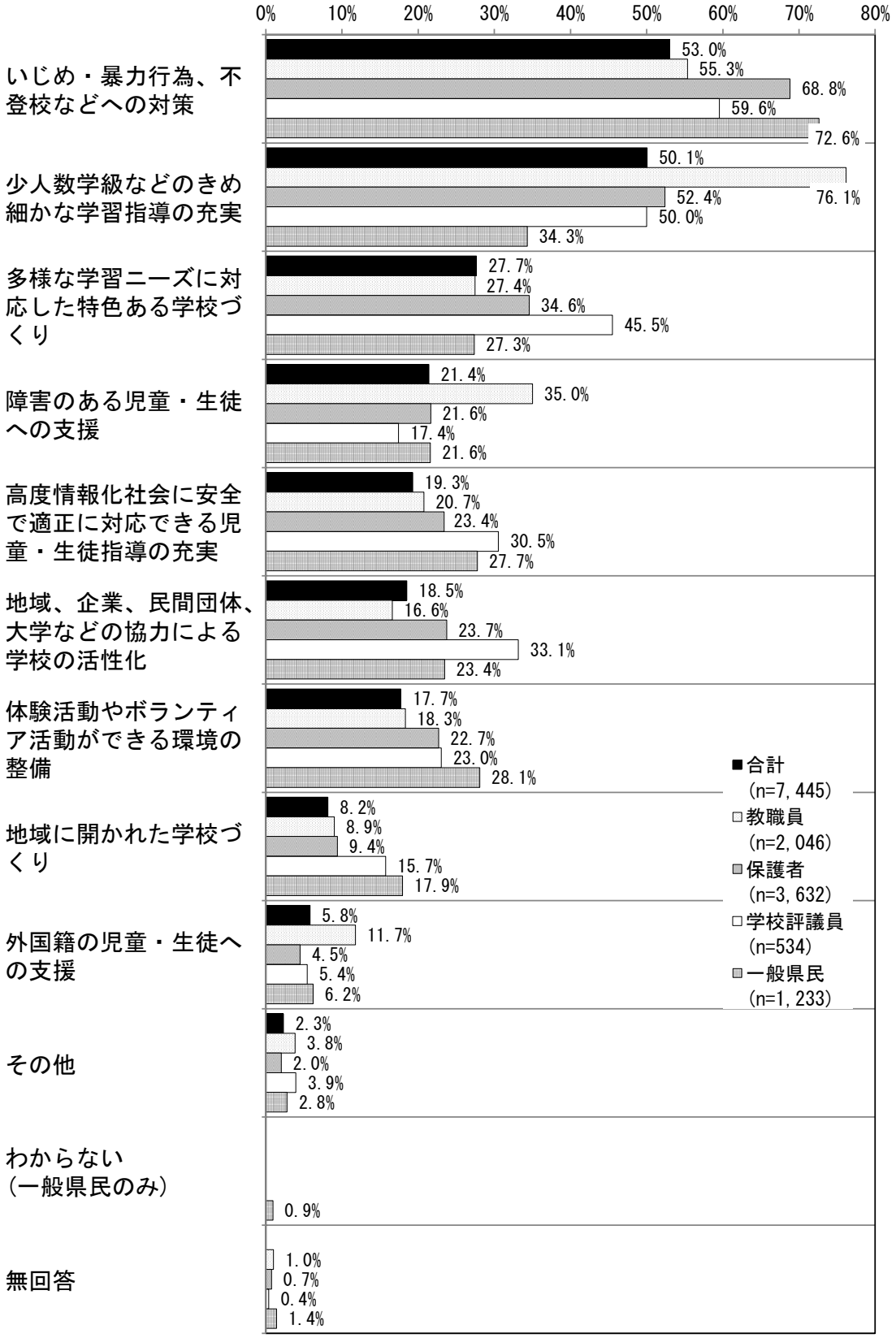
また、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、教職員の回答はいずれの調査においても「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」の割合が最も高く、平成25年度調査では76.1%であり、平成17年度調査では76.9%であった。保護者の回答は平成25年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(68.8%)であり、平成17年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(61.9%)であった。学校評議員の回答は平成25年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(59.6%)であり、平成17年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(60.2%)であった。一般県民の回答はいずれの調査においても「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」の割合が最も高く、平成25年度調査では72.6%、平成17年度調査では62.3%であった。

『県が取り組むべき施策』について教職員、保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」(76.1%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(55.3%)、「障害のある児童・生徒への支援」(35.0%)であり、保護者及び学校評議員では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(保護者：68.8%、学校評議員：59.6%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(保護者：52.4%、学校評議員：50.0%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(保護者：34.6%、学校評議員：45.5%)、一般県民では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(72.6%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(34.3%)、「体験活動やボランティア活動ができる環境の整備」(28.1%)であった。（表Ⅷ-1、図Ⅷ-1 参照）

表 VIII-1　県が取り組むべき施策(上位５項目)

	教職員	保護者	学校評議員	一般県民
1位	少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策
	76.1%	68.8%	59.6%	72.6%
2位	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	少人数学級などのきめ細かな学習指導	少人数学級などのきめ細かな学習指導	少人数学級などのきめ細かな学習指導
	55.3%	52.4%	50.0%	34.3%
3位	障害のある児童・生徒への支援	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備
	35.0%	34.6%	45.5%	28.1%
4位	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実
	27.4%	23.7%	33.1%	27.7%
5位	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり
	20.7%	23.4%	30.5%	27.3%

図 VIII-1　県が取り組むべき施策(教職員、保護者、学校評議員、一般県民)



平成 17 年度調査との比較

『県が取り組むべき施策』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実」(76.1%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(55.3%)、「障害のある児童・生徒への支援」(35.0%)であり、平成 17 年度調査では「少人数学級などきめ細かな学習指導の充実」(76.9%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(46.7%)、「障害のある児童・生徒への支援」(33.2%)であった。

保護者の回答は平成 25 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(68.8%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(52.4%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(34.6%)であり、平成 17 年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(61.9%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(58.0%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(33.3%)であった。

学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(59.6%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(50.0%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(45.5%)であり、平成 17 年度調査では「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(60.2%)、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(41.9%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(39.4%)であった。

一般県民の回答は平成 25 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(72.6%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(34.3%)、「体験活動やボランティア活動ができる環境の整備」(28.1%)であり、平成 17 年度調査では「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」(62.3%)、「少人数学級などのきめ細かな学習指導」(44.9%)、「多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり」(35.9%)であった。(表Ⅷ-2 参照)

表 VIII-2　県が取り組むべき施策（上位９項目）

	教職員		保護者	
	（平成 25 年度）	（平成 17 年度）	（平成 25 年度）	（平成 17 年度）
	n=2,046	n=1,863	n=3,632	n=3,876
１位	少人数学級などのきめ細かな学習指導の充実	少人数学級などきめ細かな学習指導の充実	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	少人数学級などのきめ細かな学習指導
	76.1%	76.9%	68.8%	61.9%
２位	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	少人数学級などのきめ細かな学習指導	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策
	55.3%	46.7%	52.4%	58.0%
３位	障害のある児童・生徒への支援	障害のある児童・生徒への支援	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり
	35.0%	33.2%	34.6%	33.3%
４位	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	情報化社会へ安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実
	27.4%	29.8%	23.7%	28.6%
５位	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備
	20.7%	20.5%	23.4%	24.3%
６位	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	情報化社会へ安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化
	18.3%	18.3%	22.7%	21.7%
７位	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	障害のある子どもへの支援	障害のある子どもへの支援
	16.6%	16.9%	21.6%	19.3%
８位	外国籍の児童・生徒への支援	地域に開かれた学校づくり	地域に開かれた学校づくり	地域に開かれた学校づくり
	11.7%	12.6%	9.4%	10.9%
９位	地域に開かれた学校づくり	外国籍の児童・生徒への支援	外国籍の子どもへの支援	外国籍の子どもへの支援
	8.9%	8.8%	4.5%	3.3%

	学校評議員		一般県民	
	（平成 25 年度）	（平成 17 年度）	（平成 25 年度）	（平成 17 年度）
	n=534	n=515	n=1,233	n=1,530
1位	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	少人数学級などのきめ細かな学習指導	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策
	59.6%	60.2%	72.6%	62.3%
2位	少人数学級などのきめ細かな学習指導	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策	少人数学級などのきめ細かな学習指導	少人数学級などのきめ細かな学習指導
	50.0%	41.9%	34.3%	44.9%
3位	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり
	45.5%	39.4%	28.1%	35.9%
4位	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備
	33.1%	32.6%	27.7%	35.2%
5位	高度情報化社会に安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	情報化社会へ安全で適正に対応できる児童・生徒指導の充実	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化
	30.5%	30.9%	27.3%	30.6%
6位	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	体験活動やボランティア活動ができる環境の整備	地域、企業、民間団体、大学などの協力による学校の活性化	障害のある子どもへの支援
	23.0%	27.0%	23.4%	21.4%
7位	障害のある子どもへの支援	地域に開かれた学校づくり	障害のある子どもへの支援	地域に開かれた学校づくり
	17.4%	24.9%	21.6%	18.4%
8位	地域に開かれた学校づくり	障害のある子どもへの支援	地域に開かれた学校づくり	外国籍の子どもへの支援
	15.7%	16.3%	17.9%	4.6%
9位	外国籍の子どもへの支援	その他	外国籍の子どもへの支援	その他
	5.4%	3.7%	6.2%	3.2%

VIII－2　「神奈川らしい教育」に生かしたいもの

教職員には「神奈川らしい教育」に生かしたいものについて、保護者と学校評議員には「神奈川らしい教育」として取り組んでほしいものについて聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」、「個性豊かでたくましい人づくり」、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」であり、保護者及び学校評議員では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」、「個性豊かでたくましい人づくり」であった。

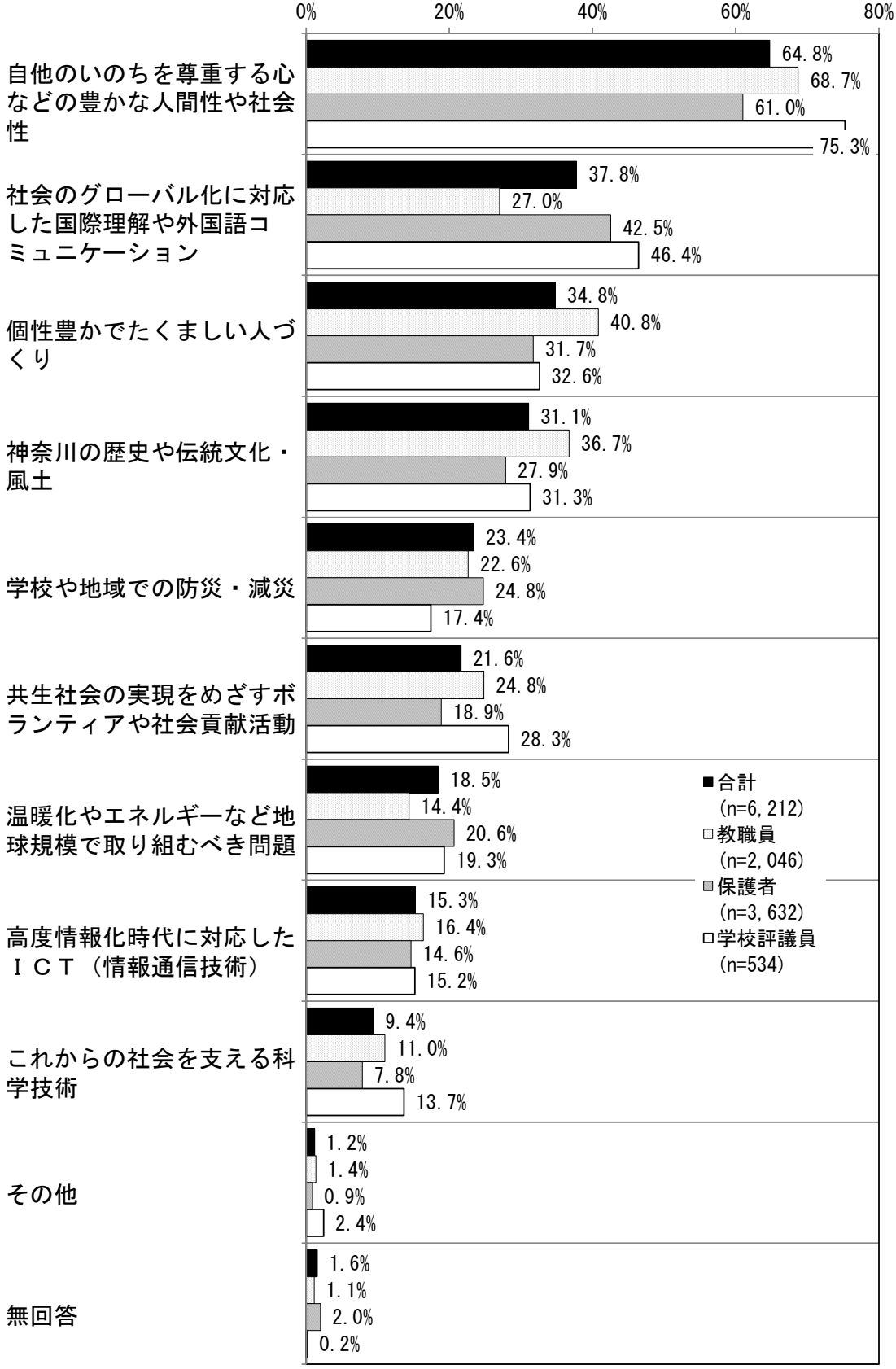
また、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(68.7%)、平成17年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(39.0%)であり、保護者の回答は平成25年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(61.0%)、平成17年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(40.0%)、学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(75.3%)、平成17年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(46.0%)であった。

『「神奈川らしい教育」に生かしたいもの』について教職員、保護者及び学校評議員に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では、「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(68.7%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(40.8%)、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」(36.7%)であり、保護者及び学校評議員では、「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(保護者：61.0%、学校評議員：75.3%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(保護者：42.5%、学校評議員：46.4%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(保護者：31.7%、学校評議員：32.6%)であった。（表Ⅷ-3、図Ⅷ-2 参照）

表 VIII-3　「神奈川らしい教育」に生かしたいもの(上位５項目)

	教職員	保護者	学校評議員
１位	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性
	68.7%	61.0%	75.3%
２位	個性豊かでたくましい人づくり	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション
	40.8%	42.5%	46.4%
３位	神奈川の歴史や伝統文化・風土	個性豊かでたくましい人づくり	個性豊かでたくましい人づくり
	36.7%	31.7%	32.6%
４位	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	神奈川の歴史や伝統文化・風土	神奈川の歴史や伝統文化・風土
	27.0%	27.9%	31.3%
５位	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	学校や地域での防災・減災	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動
	24.8%	24.8%	28.3%

図 VIII-2　「神奈川らしい教育」に生かしたいもの（教職員、保護者、学校評議員）



平成 17 年度調査との比較

『「神奈川らしい教育」に生かしたいもの』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(68.7%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(40.8%)、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」(36.7%)であり、平成 17 年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(39.0%)、「共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動」(30.7%)、「神奈川の歴史や伝統文化・風土」(29.5%)であった。

保護者の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(61.0%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(42.5%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(31.7%)であり、平成 17 年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(40.0%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(34.7%)、「温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題」(30.0%)であった。

学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性」(75.3%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(46.4%)、「個性豊かでたくましい人づくり」(32.6%)であり、平成 17 年度調査では「個性豊かでたくましい人づくり」(46.0%)、「共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動」(31.7%)、「社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション」(31.3%)であった。(表Ⅷ-4 参照)

表 VIII-4　「神奈川らしい教育」に生かしたいもの（上位８項目）

	教職員		保護者		学校評議員	
	（平成25年度）	（平成17年度）	（平成25年度）	（平成17年度）	（平成25年度）	（平成17年度）
	n=2,046	n=1,863	n=3,632	n=3,876	n=534	n=515
１位	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性（※）	個性豊かでたくましい人づくり	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性（※）	個性豊かでたくましい人づくり	自他のいのちを尊重する心などの豊かな人間性や社会性（※）	個性豊かでたくましい人づくり
	68.7%	39.0%	61.0%	40.0%	75.3%	46.0%
２位	個性豊かでたくましい人づくり	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動
	40.8%	30.7%	42.5%	34.7%	46.4%	31.7%
３位	神奈川の歴史や伝統文化・風土	神奈川の歴史や伝統文化・風土	個性豊かでたくましい人づくり	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	個性豊かでたくましい人づくり	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション
	36.7%	29.5%	31.7%	30.0%	32.6%	31.3%
４位	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	神奈川の歴史や伝統文化・風土	神奈川の歴史や伝統文化・風土 共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	神奈川の歴史や伝統文化・風土	神奈川の歴史や伝統文化・風土
	27.0%	25.0%	27.9%		31.3%	26.8%
５位	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション	学校や地域での防災・減災（※）		共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題
	24.8%	22.3%	24.8%	23.6%	28.3%	20.4%
６位	学校や地域での防災・減災（※）	高度情報化時代に対応したＩＴ（情報技術）	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	高度情報化時代に対応したＩＴ（情報技術）	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	高度情報化時代に対応したＩＴ（情報技術）
	22.6%	12.5%	20.6%	15.8%	19.3%	10.9%
７位	高度情報化時代に対応したＩＣＴ（情報通信技術）	これからの社会を支える科学技術	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動	これからの社会を支える科学技術	学校や地域での防災・減災（※）	これからの社会を支える科学技術
	16.4%	7.7%	18.9%	5.3%	17.4%	9.1%
８位	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題	その他	高度情報化時代に対応したＩＣＴ（情報通信技術）	その他	高度情報化時代に対応したＩＣＴ（情報通信技術）	その他
	14.4%	1.9%	14.6%	1.3%	15.2%	2.7%

※印は平成25年度の新規追加項目